

アルザス補習授業校:電子黒板を使った取り組み

アルザス補習授業校では、海外の補習校が直面する典型的な課題に対応するため、一部のクラスで電子黒板を導入しています。私たちが特に注目した課題は以下の通りです。

- ・読解力の向上:

「読む」よりも「聞く」ことに頼る傾向が強い生徒たちの文字や文章を通じた理解力を向上させる必要がありました。

- ・視覚的な言語認識の強化:

日常的に日本語の文字に触れる機会が限られているため、漢字を含む日本語の文字体系に対する親和性を高める必要がありました。

- ・コミュニケーション能力の発達:

大人数での日本語によるコミュニケーション能力を養う機会を増やす必要がありました。

- ・学習の継続性の確保:

週1回の授業で、前回の学習内容を効果的に復習し、連続性のある学習を行う方法を見出す必要がありました。

これらに対し、従来の教育方法では以下の課題が見受けられました。

- ・「しっかりと教科書を読んで答えなさい」という指示だけでは、教科書の中から必要な情報を見つけ出すことに苦勞する生徒がいました。

- ・文字に苦手意識を持つ生徒は、注意力や集中力を持続させることが困難でした。

- ・個々の生徒が手元の教科書を見て学習する形式では、クラス全体でのディスカッションや協働学習の機会が限られていました。

パソコン・スマートフォンを使った電子黒板の使用

当校では、先述の課題に対応するため、まず教科書を電子黒板に投影することから始めました。この方法により、教師が必要な箇所を直接指し示すことができ、生徒たちの理解を大きく促進しました。また当校の電子黒板システムは、ホワイトボードに投影する形式であったため、投影されたワークに直接マーカーで書き込むことが可能でした。この機能を活用することで、生徒たちが内容を理解しやすく、ノートに写しやすくなりました。

電子黒板用のプロジェクターは借用校舎の設備を利用していましたが、パソコンの持ち込みが必要でした。当初、パソコンの持ち運びが課題でしたが、「USBC-HDMIケーブル」を導入することで、スマートフォンからプロジェクターへの接続が可能となり、電子黒板の使用がより簡便になりました。



iPadやペンタブを使った電子黒板の使用

筆者が個人的にiPadを購入して以降、電子黒板へのiPad投影も開始しました。
例えば、4年生の「白いぼうし」の授業では、新出語彙に青マーカ―、季節を表す言葉にオレンジマーカ―、色彩を表す言葉には赤い囲みを用いるなど、生徒たちの意見を視覚的に整理して電子黒板に表示することが可能になりました。さらに、この方法により翌週の授業でも同じ画面を再現できるため、効果的な復習が可能になりました。



ワークに取り組む際は、二画面表示機能を活用し、教科書とワークを同時に投影しています。この方法により、解答に必要な箇所を生徒たちと共に教科書で確認しながら、スムーズに授業を進行することができるようになりました。

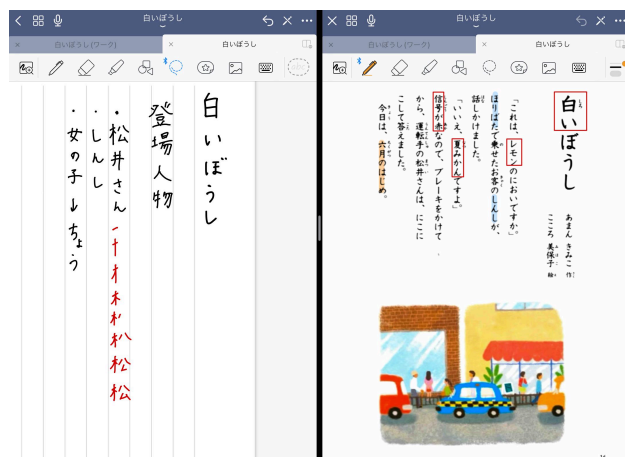


さらに、ワークを2画面で表示させることで、生徒の進度に合わせた指導が可能になりました。
例えば、板書に時間がかかる生徒のために右画面に前の内容を残しつつ、左画面では次の内容を早く終えた生徒向けの指示を表示するといった柔軟な対応ができるようになりました。



オンライン授業への応用

これらの電子黒板の活用法は、オンライン授業にも適用可能です。施設の都合などでオンライン授業を実施する必要が生じた際、筆者はパソコンとiPadの2台を同時に接続して授業を行っています。パソコンで自身の姿を映しながら生徒たちの様子を確認し、iPadでは画面共有機能を用いて授業を進行しています。オンライン授業においても、教科書と並行してノート機能を使用することで、板書が容易になり、教室での対面授業に近い環境を再現することができました。



なお、これらの実践には主にiPadのGoodnotesアプリを使用しましたが、同様の取り組みはパソコンでも可能です。ペンタブレットを併用すれば、パソコン上でOneNoteなどのアプリを使用して手書きでの書き込みができ、より柔軟な授業展開が可能になります。

まとめ

電子黒板の導入は、アルザス補習授業校の生徒たちにとって、以下のような多面的な効果をもたらしました。

1. 読み書き能力の強化と文字への関心の高まり:

海外在住の子ども達にとって、読み書き能力は意識的に強化する必要があります。電子黒板は、この課題に対する効果的なツールとなっています。聴覚に頼りがちだった生徒たちが、電子黒板を通じて日本語を視覚的に捉えることで、文字や漢字への関心が高まりました。特に、漢字の多さに圧倒されがちな生徒たちにとって、電子黒板は大きな助けとなっており、日本語を視覚的な言語として理解を深めることを促進しています。

2. 継続的な学習支援:

電子黒板の内容を翌週まで保存できることで、前回の学習内容の復習が容易になり、連続性のある学習が可能になりました。

3. 注意力、集中力、学習意欲の向上:

以前は授業中に注意力が散漫になりがちだった生徒たちが、電子黒板の視覚的な刺激により、より集中して授業に参加するようになりました。電子黒板の導入により、日本語の難しさを感じていた子ども達も、今では一生懸命授業に参加するようになり、全体的な学習意欲の向上が見られます。

4. 能動的な学習参加:

ワークを電子黒板に投影し、生徒自身に書き込みをさせることで、学習への積極的な参加が促されました。これにより、学習モチベーションのさらなる向上が見られます。

5. 協働学習とコミュニケーション能力の向上:

電子黒板の使用により、クラス全体での能動的な話し合いが可能になりました。以前は各自が手元の教科書を見て個別に考えていましたが、電子黒板を中心に全員で考え、議論することができるようになりました。これは家族単位や小さなグループでの日本語使用に慣れている生徒たちが、より大きな集団での日本語でのコミュニケーション能力を養う機会になりました。

これらの効果から、補習校における電子黒板の使用は、海外で日本語を学ぶ子ども達の言語能力向上に大きく貢献していると言えます。視覚と聴覚の両面からアプローチすることで、より効果的な日本語教育が実現できています。さらに、協働学習を促進し、コミュニケーション能力を向上させる場を提供することで、総合的な日本語運用能力の発達を支援しています。

なお、本実践で行った教科書等の電子黒板への投影は、授業目的での使用に限定し、必要最小限の範囲内で行っています。具体的には、授業中に黒板に映す、また録画を伴わないオンライン授業で使用する目的で、教科書等の必要な部分のみを最低限スキャンしています。これは著作権法第35条に基づく教育機関での著作物の利用に関する規定を遵守するための措置です。

文責:アルザス補習授業校講師 向井ひか梨